かんきつそうか病に対するベンゾイミダゾール系薬剤の防除効果						
〔要約〕　かんきつそうか病に対してベンゾイミダゾール系のトップジンM水和剤の感受性は低下しておらず，発芽期と落弁期の各々２回，あるいは１回の散布で防除効果が高い。						
長崎県果樹試験場病害虫科	専門	作物病害	対象	果樹類	分類	普　及
平成４年度長崎県果樹試験場業務報告						

〔背景・ねらい〕

近年かんきつ類の更新が盛んになって，そうか病の発生が目立つようになっているが，これに対してベンゾイミダゾール系薬剤の防除効果が低い例がみられるようになった。この原因として薬剤耐性菌の出現が危ぶまれているので，その散布時期と回数を検討する。

〔成果の内容・特徴〕

① ベンゾイミダゾール系のトップジンM水和剤１，０００倍を発芽期と落弁期に各々２回散布すると高い防除効果を示したが，１回処理でも十分な防除効果を示す。

② このためそうか病に対してトップジンM水和剤の防除効果が低い原因は効果が減退したのではなく，適期散布がなされなかったためと考えられる。

③ 散布適期さえ遵守すれば，まだベンゾイミダゾール系薬剤も十分使用できる地域が多い。

〔成果の活用面・留意点〕

① 薬剤の散布適期は発芽初期（芽が３㎜に伸びた時期），落弁期，および６月上～中旬の３回であるので，これををはずさない。

② 適期散布を行っても防除効果を低い場合は感受性低下の可能性があるので，関係機関に検定してもらうか，他の系統の薬剤（デラン水和剤など）に換える。

〔具体的データ〕

表１　そうか病に対する薬剤の散布回数と防除効果

供試薬剤名	散布月日				春葉		果実	
	4. 3	4.17	5.11	5.27	発病葉率	発病度	発病果率	発病度
ﾄｯﾌﾟｼﾝ 水和剤　1000倍	○	○	○	○	0%	0	0%	0
ﾄｯﾌﾟｼﾝ 水和剤　1000	○		○		0	0	0	0
ﾍﾞﾝﾚｰﾄ D F　2000	○		○		0	0	0	0
無処理					30.0	15.7	80.1	36.6

〔その他〕

研究課題名：果樹の特殊病害虫発生状況調査

予算　区分：県単

研究　期間：平成４年（平成４～５）

研究担当者：大久保宣雄

既発表論文等：平成４年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：特になし